



日高市の小中一貫教育



令和3年11月19日（金）
日高市生涯学習センター

「コミュニティ・スクールを基盤とした 小中一貫教育」

「小中一貫教育」

- ・ 目指す 15歳像を共有し、9年間一貫した教育内容のもと、系統的な指導を目指す教育

「コミュニティ・スクール」

- ・ 学校運営協議会を設置した学校



コミュニティ・スクールは、学校と地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させて、協働しながら子供たちの豊かな成長を支える「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第47条の5）に基づいた仕組みです。



「基盤」

- ・ コミュニティ・スクールが小中一貫教育を支える



コミュニティ・スクールが小中一貫教育を支えます！！

～ 日高市では 学校と学校運営協議会が「目指す15歳像」を共有し 地域とともに歩む特色ある教育の推進に向けて 協議し実践しています ～



高麗地区小中一貫教育の取組



小中共通目標【目指す15歳像】

「よく学び、心豊かに、たくましい高麗っ子」

- (知) 進んで学び、学習の基礎・基本を身に付けることができる子
- (徳) 思いやりの心を持ち、他者と共によりよい生き方ができる子
- (体) 心身ともに健康で安全な生活を送ることができる子

○学力向上：学習・授業・家庭学習スタンダードの実践、学力調査分析と課題研究、高麗中核定の実施、小中交流授業、兼務発令による乗り入れ授業、小中一貫年間指導計画の作成

○生活指導：生活スタンダードの実践、小中合同研修会の実施、朝読書の推進、小中合同挨拶運動の推進

○健康教育：基本的な生活習慣の確立、性教育の充実、体力向上の推進・学校保健委員会の実施



高麗地区学校運営協議会の取組

令和2年度実績（実施日 6/8、7/16、11/9、2/22、3/19）

教育目標・学校運営の基本方針の承認、学校施設の管理に関する承認、小中一貫校設置にあたっての意見のまとめ、児童生徒の学校生活に係る課題の把握とその解決に向けての話し合い、学校評価項目の検討・実施、次年度教育計画の承認、高麗コミュニティ会議、青少年健全育成の会、PTA組織との連携（地域学校協働本部との協力）



高麗川地区小中一貫教育の取組

小中共通目標【目指す15歳像】

「ふるさとを愛し、自ら進んで学ぶ、心豊かな高麗川っ子」

～地域と学校の連携を生かした学習・体験・交流を通して～

- (知) 自ら考え、よく学び、自分の言葉で表現できる子
- (徳) 相手の気持ちを考え、仲良く協力し合える子
- (体) 自分の目標を持って、進んで運動できる子

○「こんな高麗川地区の子供たちを育てよう」小中交流会・高麗川地区合同研修会の実施、授業参観

○高麗川地区小中一貫教育全教科領域カリキュラムの作成・実施（各教科・領域における目指す15歳像の姿についての協議）

○小学校教員の中学校への授業参観と教職員や児童生徒の交流の在り方、保護者や地域と学校の関わり方についての検討



高麗川地区学校運営協議会の取組

令和2年度実績（実施日 7/7、8/21、11/17、1/29、2/16）

教育目標・学校運営の基本方針の承認、令和元年度成果と課題、学校運営協議会組織及び年間計画の承認、小中学校の現状把握、小中一貫教育について、9年間育てたい子供像の検討と学校・家庭・地域の役割について、施設分限型の小中一貫教育に向けての提言、学校評価・アンケート内容の協議、令和3年度教育計画の承認、学校運営協議会活動計画の策定、市への提言＝ふるさとを愛する心の育成について、地域学校協働本部の立ち上げ



高萩地区小中一貫教育の取組



小中共通目標【目指す15歳像】

「ふるさとを愛し、生きていく力を育む萩っ子」

- (知) 夢を持ち、豊かな学びができる子
- (徳) 絆を大切にできる子
- (体) 明るく元気な子

【目指す学校像】「みんなで創る 笑顔あふれる おらが地域の学校」
【高萩小・中学校の教育目標】「かしこく やさしく たくましく」

○兼務発令による乗り入れ授業（3・4年生：国語科、算数科、英語科）の実施、小中合同研修会、小中合同教科部会で学力向上に向けた学習スタンダードの確立

○児童会と生徒会を中心とした小中合同挨拶運動、小学校5年生と各地区の交流、萩中フェスタ等の交流、新入生1日体験入学

○なかよし運動会に向けた部活動交流会、持久走大会（ロードレース大会）の同日開催



高萩地区学校運営協議会の取組

令和2年度実績（実施日 5/28、9/8、11/18、1/27、3/9）

学校経営方針の承認（小中共通学校教育目標、目指す児童生徒像、目指す学校像、重点目標、年間計画等）、先進市に学び、地域学校協働本部設置に関する共通理解と組織化に向けての協議、学校課題に対する支援の在り方についての協議、学校評価項目の承認と実施、令和3年度当初人事について、令和3年度教育計画の承認・学校運営協議会活動計画の策定



高根地区小中一貫教育の取組



小中共通目標【目指す15歳像】

「夢を持ち、自分の行動に責任を持つ かにたっ子」

- (知) 自ら学ぶ子
- (徳) 夢に向かってがんばる子
- (体) あきらめないでやりぬく子

【高根小・中学校の教育目標】「知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成」

○幼保小中連絡協議会

○小学校就学前から中学校卒業までを貫く生活指導のあり方の検討

○小中一貫教育計画の検討（教科ごとの目指す15歳像の検討、重点指導事項に関する協議）授業公開

○小中学校教員の連携

○小中合同登校指導の実施（年3回）



高根地区学校運営協議会の取組

令和2年度実績（実施日 6/4、7/7、9/16、12/15、2/5）

小中学校経営方針の説明・承認、年間活動計画の策定、小中ランドデザインの修正・説明・承認、小中学校の現状把握、小中学校共通目標【目指す15歳像】の設定承認、地域学校協働本部組織化に向けての協議、高根地区整備計画について、小中一貫校にかかる施設についての意見取りまとめ、学校運営協議会部会設置について、教職員人事への意見、学校評価、次年度教育計画の承認



高萩北地区小中一貫教育の取組



小中共通目標【目指す15歳像】

「明日をひらき のびゆく 輝多っ子」

- (知) 自ら学び続ける子
- (徳) 相手の気持ちを考え行動できる子
- (体) 進んで運動を楽しめる子

○各教科・領域ごとの「高萩北小中一貫教育カリキュラム」作成に向けた小中合同研修会の実施

○小中の段差を小さくするための「高萩北小・中生活のきまり」作成と「授業スタイル・形骸の共通化」に向けた話し合い

○重点課題である「あいさつ」の向上のための、小中合同あいさつ運動への取り組みと、中学校生徒によるデザイン「小中一貫シンボルマーク」の策定



高萩北地区学校運営協議会の取組

令和2年度実績（実施日 6/5、7/22、10/8、12/10、2/9）

小中学校経営方針の検討・承認、高萩北地区小中一貫教育の方針、学校運営協議会「目指す15歳像」設定の検討と承認、学校運営協議会を取り組む内容の熟議（児童生徒に望むこと、学校に望むこと、地区住民に望むこと）、地域学校協働本部の立ち上げにかかる地域への説明と協力依頼、小中一貫校シンボルマークについて、学校評価項目の承認と実施、令和3年度当初人事及び教育計画の承認・本会議活動計画の策定



武蔵台地区小中一貫教育の取組



小中共通目標【目指す15歳像】

「たくましく未来を切り拓き、一歩上を目指す台っ子」

- (知) 進んで学び、学習の基礎・基本をしっかりと身に付けた15歳
- (徳) 思いやりの心を持ち、他者と共によりよい生き方を求める15歳
- (体) 基礎体力を身に付け、心身共に健康で安全な生活を送る15歳

○学習・授業・生活・家庭学習リンクを定め、小中をつなげる実践

○学習：授業における学習規律の統一

○授業：「自分で考え、判断できる授業」づくり

○生活：「自分のことは自分で考えて行動できる子」の育成を目指した、発達段階に応じた3つの習慣（挨拶・近所・集合）

○家庭学習：宿題から自主学習へつなげる指導

○兼務発令による乗り入れ授業（外国語）の実施や、行事などを通じた協働の計画



武蔵台地区学校運営協議会の取組

令和2年度実績（実施日 6/25、9/9、11/4、2/24、3/17）

学校新スタイルの説明、学校運営の基本方針等の承認、武蔵台地区学校運営協議会発着と運営体制の策定と承認、学校統合に係る小中学校校舎の検討、学校からの要望についての協議と関係する関係者の協議、アドバンス委員の委嘱、武蔵台小中一貫校の設置に関する意見のまとめ（保護者、教員、地域住民へのアンケート実施）、学校運営協議会部会設置について、学校評価、次年度教育計画の承認、学校運営協議会活動計画の策定、地域学校協働本部立ち上げについての協議



日高市の小中学校と地域の課題

<特色>

- ▶ 6地区（1小学校・1中学校・1公民館）という日高の独自性がある
- ▶ 学校と地域の緊密な連携が醸成されている

高麗小学校
高麗中学校
高麗公民館

高麗川小学校
高麗川中学校
高麗川公民館

高萩小学校
高萩中学校
高萩公民館

武蔵台小学校
武蔵台中学校
武蔵台公民館

高根小学校
高根中学校
高麗川南公民館

高萩北小学校
高萩北中学校
高萩北公民館

6地区 各地区に1小学校、1中学校、1公民館

<学校の課題>

- 学力向上＝喫緊の課題・・・全国学力テスト、県学力学習状況調査から
- 新学習指導要領・・・社会と連携・協働し、開かれた教育課程の創造
- 小中ギャップ・・・いじめ、不登校、学校不適應など

<地域の課題>

- 児童・生徒数の大幅な減少が見込まれる
- 公共建造物（学校教育施設65%）の最適化が喫緊の課題である
- 地域の高齢化に伴う活力の減退＝ふるさと意識の喪失



日高市 幼児・児童・生徒数（令和3年5月）

地区								小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	地区別
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	合計
高麗	1	19	14	26	24	34	40	33	29	28	34	46	44	44	38	38	492
高麗川	7	109	97	98	107	117	124	135	131	141	163	152	150	157	156	162	2006
高萩	3	61	55	67	80	84	74	97	83	96	96	93	97	120	108	77	1291
高根	0	19	16	15	21	21	21	26	22	30	40	35	45	48	50	44	453
高萩北	4	48	57	52	62	69	84	73	104	98	105	110	134	120	138	147	1405
武蔵台	2	22	16	27	30	24	31	27	40	34	37	38	35	39	43	44	489
合計	17	278	255	285	324	349	374	391	409	427	475	474	505	528	533	512	6136

日高市 地区別児童・生徒、クラス数の推移

※令和4～特別支援学級は除く

	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
高麗小・中 クラス数	334 小8 中4 特3	338 小8 中5	331 小7 中6	311 小7 中5	293 小7 中4	261 小7 中3	246 小7 中3
高麗川小・中 クラス数	1347 小24 中12特7	1312 小24 中12	1264 小24 中12	1199 小24 中12	1121 小23 中12	1098 小22 中13	949 小22 中12
高萩小・中 クラス数	867 小18 中8 特5	865 小18 中10	837 小18 中10	786 小18 中9	760 小17 中9	724 小16 中9	690 小15 中9
高根小・中 クラス数	340 小7 中6 特5	299 小6 中6	287 小6 中5	240 小6 中4	212 小6 中3	197 小6 中3	180 小6 中3
高萩北小・中 クラス数	1029 小19 中12 特5	967 小18 中12	895 小17 中11	826 小16 中10	745 小15 中9	698 小14 中9	644 小13 中9
武蔵台小・中 クラス数	337 小7 中5 特3	325 小6 中5	305 小6 中3	291 小6 中3	285 小6 中3	263 小6 中3	248 小6 中3
児童生徒合計	4254	4106	3919	3653	3416	3241	2957

小中一貫教育が求められる背景・理由（文科省）

H17 中央教育審議会「新しい時代の義務教育を創造する（答申）

H18 教育基本法改正

H19 学校教育法改正→小中学校共通の目標として**義務教育の目標規定**が新設（第21条）

○ 改正前

第17条

「小学校は心身の発達に応じて**初等普通教育**を施すことを目的とする」

第35条

「中学校は、小学校における教育の基礎の上に心身の発達に応じて**中等普通教育**を施すことを目的とする」

改正後

◎「**義務教育として行われる普通教育**は～
第29条

「小学校は心身の発達に応じて**義務教育として行われる普通教育**のうち、**基礎的なもの**を施すことを目的とする」

第45条

「中学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、**義務教育として行われる普通教育**を施すことを目的とする」

H20 学習指導要領改訂→小・中学校の連携を強化する観点が明示
・それぞれの学習指導要領の巻末に、小・中の目標を掲載する。

学習指導要領の改訂からわかる課題とは・・・

- ・ 小学校低学年の教員は、中学校での学習や子供たちが**中学校を卒業する時の姿をイメージしながら**日々の教育活動を行っているか？
- ・ 中学校の教員は、**小学校のどの学年で、何を学んで、何につまずいて今の子供たちの姿があるのか**を知ったうえで指導に当たっているか。



- ・ **小学校と中学校が共に義務教育の一環を形成する学校として**学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して目的を達成する観点から、**義務教育9年間の全体像を把握し**、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組むことが重要である。



新学習指導要領について

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力
を育む「**社会に開かれた教育課程**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- 小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など
- 様々な資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す。
- 学習内容の削減は行わない。**

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

- 生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
- 知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

これからの教育課程の理念

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

＜社会に開かれた教育課程＞

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

小中一貫教育（９年間を見通した教育）

施設形態の分類



- ① 施設一体型 小学校と中学校の校舎の全部または一部が一体的に設置されている。
小学校と中学校の校舎が渡り廊下などでつながっているものも含む。
【武蔵台・高根・高麗】
- ② 施設隣接型 小学校と中学校の校舎が同一敷地又は隣接する敷地に別々に設置されている。
【高萩】
- ③ 施設分離型 小学校と中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に別々に設置されている。
【高麗川・高萩北】

日高市の小中一貫教育の制度化における 2 類型

①義務教育学校

- ・ 修業年限 9 年（前期課程 6 年、後期課程 3 年）
- ・ 校長は 1 人、教頭 2 人（統括担当の副校長配置も可能）
- ・ 教員は原則として小・中免許を併有（当面は併有でなくても可）
- ・ 事務職員、養護教諭は 2 人配置
- ・ 学校統合、専科指導等の教員加配（見込み）
- ・ 教職員定数は前期課程は小学校、後期課程は中学校と同等の算定

☆ 施設一体型を義務教育学校とする

②併設型小学校・中学校

- ・ 小・中学校が同じ設置者
- ・ 修業年限は小学校課程 6 年、中学校課程 3 年
- ・ 校長は各学校に 1 人（内 1 人が統括校長となる）
- ・ 教員は各学校に対応した免許を保有



☆ 施設隣接型、分離型を併設型小中一貫教育校とする

義務教育学校の教職員定数の算定

○義務教育学校の「前期課程」は小学校、「後期課程」は中学校にそれぞれ準じた教育を行う。
→ 教職員定数も「前期課程」は小学校、「後期課程」は中学校と同等の算定とする。

○義務教育学校は、副校長・教頭に総括担当として1人分を加算する。

※ 義務教育学校に対する加配措置…小・中学校と同様に措置

【小学校1校と中学校1校を義務教育学校1校に移行する場合の例】

小・中学校の算定（例）		
○小学校 (12学級校)		
校長 1人	職種	定数
	副校長・教頭	1人
	教諭	13.5人
	養護教諭	1人
	事務職員	1人
○中学校 (6学級校)		
校長 1人	職種	定数
	副校長・教頭	1人
	教諭	9.5人
	養護教諭	1人
	事務職員	1人
		総計：31人

義務教育学校の算定（例）		
○義務教育学校 ※前期課程（12学級） (18学級校)		
	職種	定数
	副校長・教頭	1人
	教諭	13.5人
	養護教諭	1人
	事務職員	1人
校長 1人	(小学校と同様の算定)	
副校長 1人 (総括担当)	※後期課程（6学級）	
	職種	定数
	副校長・教頭	1人
	教諭	9.5人
	養護教諭	1人
	事務職員	1人
		(中学校と同様の算定)
		総計：31人

義務教育学校を導入する理由

○児童生徒数や教職員数などの学校規模を考え、効果的に学校教育を行うため

① 小中を一体として捉える教育の推進

- ・一つの校舎の中で、小・中学生と小・中教職員が学校生活を共にすることは、一体感が高まり、**学習指導や生徒指導において互いに協力して臨むことができる。**
- ・小中共通目標「目指す15歳像」の実現を目指すため、**9年間の系統性・連続性を重視した教育課程を工夫して行うことがより可能となる。**

② 小中ギャップの緩和・解消

- ・小学校と中学校間の段差を緩和することで、**小学校教育から中学校教育への円滑な移行**を促すことが可能となり、中1の壁や小中ギャップと呼ばれる学校不適應の問題が緩和・解消する効果が期待できる。

③ 異学年交流による社会性の育成

- ・1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じて異学年交流を行うことによって、**縦のつながりを重視し、上級生から下級生に対する思いやりの心や規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ち**などが高まり、**精神的な発達や社会性の育成等の効果**が期待できる。

④ 継続的な指導

- ・小学校と中学校が1つの学校となることで、9年間継続して複数の教員が児童生徒に関わることができるようになり、**個に応じたきめ細やかで丁寧な生徒指導が可能となる。**



小中一貫教育校は

○義務教育学校に準じた形で9年間の教育目標を設定し、系統性を踏まえて教育課程を編成・実施します。

- ・小中共通目標「目指す15歳像」の実現を目指すため、9年間の系統性・連続性を重視した教育課程を行う。



具体的には

- ・学校運営協議会で小中一体的な教育課程の編成等をはじめとする学校運営に関する基本的な方針を承認する手続きを明確に行う。
- ・「ふるさと科（仮称）」の導入や「英語教育」など、新しい試みに取り組む。
- ・相互乗り入れ授業や教科担任制、共通の日課表や学校生活のきまり、合同行事の開催など、小中の一体感を構築する教育を推進する。

小中一貫教育校名称等説明会で明らかとなった主な意見や課題

実施期間：6月28日～7月29日 全12回

実施場所：武蔵台・高麗・高根各小中学校、公民館 全参加者数：182名

- 新しい義務教育の形に期待する。
- 「ふるさと科」や「英語教育」など新教科の取組に期待する。
- 義務教育学校、小中一貫教育について理解が深まった。期待が高まった。
- 新しい学校になるために名称も変えるべき。シンプルがよい。
- 市として、小中一貫教育校、義務教育学校にする理由が明確になった。
- 「〇〇学園」の呼称、冠称は市立の学校として違和感を感じる。そぐわない。
- 地域の伝統、受け継いできた名称が変わることに反対。
- 3地区が義務教育学校で小中学校の呼び名がなくなり、他の3地区は小中学校が残るのは統一性がない。（〇〇学園とした場合）
- 地区名が繰り返されるのはくどい。長くなり不便。（〇〇学園〇〇学校）
- 卒業式などの行事がなくなる。6年生がかわいそう。
- 跡地利用について計画がわからない。校庭や体育館を使わせてほしい。
- 取り組まなければならない課題がたくさんある。先生方の負担が大きい。
- タイムスケジュールが明らかになっていない。
- 情報不足、もっと説明会を開くべき。



考 察

- ・「日高市立〇〇学園」など、新しい名称を導入することに賛成する意見が半数を占めた。シンプルで統一感があるというのがその理由であるとする。しかし、故郷の象徴でもある「〇〇小学校」の呼称がなくなることによる大きな喪失感、抵抗感があるという意見も多かった。今まで培った伝統を守りたい、学校の形態が変わっても慣れ親しんだ呼称を使ってほしいとの願いが伝わってきた。
- ・日高市の小中学校が、義務教育学校と小中一貫校に分かれる場合、呼称はある程度統一した方が一体感が生まれる。その場合、「日高市立〇〇学園」と「日高市立〇〇学園〇〇小学校」では、表記の長短、地区名の繰り返しが発生する。また、義務教育学校と小中一貫校の区別が付きにくい。
- ・今後、校章や校歌などを新しくつくることも予想されるが、小中一貫校は今までのものでそのまま使用でき（統一の校章や校歌をつくるにしても）、義務教育学校は全く使わない、使えない、または使わない方が自然と考える人も多いだろうと推察する。今までの伝統を残す意味で、義務教育学校でも慣れ親しんだ校章や校歌を使用可能とすることも大切ではなかろうか。これは、学校の名称に大きく関わってくる課題である。



市としては

○武蔵台、高根、高麗地区の義務教育学校の名称を

「義務教育学校 日高市立○○小中学校」

○高麗川、高萩、高萩北地区の小中一貫校の名称を

「小中一貫教育校 日高市立□□小学校（中学校）」

とする。

- ・義務教育学校、小中一貫教育校の冠称は、対外的に示すものとして、公示する場合に使用するが、児童生徒が表記する場合は使用しない。

※学校教育法における正式名称は、義務教育学校は「日高市立○○小中学校」となりますが、小中一貫教育校は「日高市立□□小（中）学校」で今までと変わりません。



〈特色〉

将来の施設一体型を視野に入れて、分離型で小中一貫教育を進めている。小中の二校が近距離にある環境を有効に活用し、児童生徒間や教職員の交流を活発に行っている。

〈地域の様子〉

小学校、中学校ともに、多摩主山の北高麗丘陵の高台に広がる武蔵台及び横手台地区の住宅地に位置し、周囲を奥武蔵の山々に囲まれた自然環境豊かな場所である。地域は着実に高齢化が進み、児童生徒数は年々減少している。

〈学校の沿革〉

武蔵台小学校は昭和55年4月に高麗小学校から、武蔵台中学校は平成元年4月に高麗中学校からそれぞれ分離して開校した。武蔵台小学校は令和2年に40周年を、武蔵台中学校は平成30年に30周年を迎えた。



武蔵台小学校



学校教育目標
ともに

- ・なかよくする子
- ・かんがえる子
- ・しょうぶな子
- ・かんとどうする子

武蔵台校区として育てたい児童生徒像
「たくましく未来を切り拓き、一步上を目指す台っ子」

目指す15歳の姿

(知)進んで学び、学習の基礎・基本をしっかりと身に付けた15歳

(徳)思いやりの心を持ち、他者と共によりよい生き方を求める15歳

(体)基礎体力を身に付け、心身共に健康で安全な生活を送る15歳



武蔵台中学校



学校教育目標

- ・明るく心豊かな生徒
- ・自ら学び深く考える生徒
- ・ねばり強くやりぬく生徒

〈小中一貫教育で期待される効果〉

- 学習意欲の向上や学習習慣の定着
- 授業の理解度の向上と学習に悩みを抱える児童生徒の減少
- 中1ギャップの緩和と、不登校・いじめ・暴力行為・中学校進学への不安等の解消
- 自己肯定感の向上と思いやり・助け合いの気持ちの育成

9年間を見通した教育

I期(基礎・基本の定着)

II期(基礎・基本の拡充)

III期(発展・活用)

小1

小2

小3

小4

小5

小6

中1

中2

中3

まなび

- 9年間を見通した学習指導の推進
- 小中合同の授業研究
- 学力調査の分析を生かした授業改善
- 家庭学習の定着と充実

学習習慣を身に付け、自分の考えをもち、進んで表現することができる。

学び合いを通して、思考力と表現力を高めることができる。

主体的・対話的に学び、互いに高め合うことができる。

こころ

- 挨拶の習慣化と望ましい人間関係づくり
- 道徳教育の充実
- 交流活動を通して自己有用感の育成
- 読書活動の推進

きまりを守り、仲良くできる。

仲間との関わりを深め、互いに信頼し、協力して活動できる。

自他の良さをやよいを認め、関わりの中で温かい人間関係を築くことができる。

からだ

- 正しい姿勢の定着
- 学校栄養教諭と連携した食育
- 養護教諭と連携した保健指導
- 体力づくりの充実

「早寝・早起き・朝ごはん」を実現し、運動や遊びに進んでとりくむことができる。

自己の生活習慣に関心をもち、各種の運動に積極的に取り組むことができる。

自らの心身の健康管理や体力の向上に進んで取り組むことができる。

ちいき

- 児童会・生徒会によるボランティア活動
- 小中合同のクリーン活動
- 地域行事への参加・協力
- ボランティアによる地域貢献とキャリア教育の充実

地域やふるさとの良さを知ることができる。

地域への行事に積極的な参加・協力ができる。

地域やふるさとへの愛着をもち、地域社会に主体的に貢献できる。

〈児童・生徒間の絆を深める交流活動〉

- 中学校音楽会への参加(小6)
- 小中合同下校訓練
- 新入生1日体験入学
- 小中それぞれの周年行事への参加

〈小中の交流を円滑化・充実させる取組〉

- 小学校職員による中学校の授業参観・情報交換
- 中学校職員による小学校の授業参観・情報交換
- 中学校の授業参観(小6)
- 小中職員の定期的な研修会

学びの 基礎期 (第Ⅰ期)	1～4年	体験的・発見的活動を重視し基礎・基本の定着を図る
学びの 充実期 (第Ⅱ期)	5～7年	第Ⅰ期で身に付けた学びを使って課題を解決したり広げたりするなど、主体的な追及力の育成を図る
学びの 発展期 (第Ⅲ期)	8・9年	主体的・対話的で深い学びを総合的に発揮して実践的な発信力と自己実現を図る

【9年生卒業時】
「たくましく未来を切り拓き一歩上を目指す生徒」

9年間を見通した教育	Ⅰ期(基礎・基本の定着)				Ⅱ期(基礎・基本の拡充)			Ⅲ期(発展・活用)	
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
まなび ○9年間を見通した学習指導の推進 ○小中合同の授業研究 ○学力調査の分析を生かした授業改善 ○家庭学習の定着と充実	学習習慣を身に付け、自分の考えをもち、進んで表現することができる。				学び合いを通して、思考力と表現力を高めることができる。			主体的・対話的に学び、互いに高め合うことができる。	
こころ ○挨拶の習慣化と望ましい人間関係づくり ○道徳教育の充実 ○交流活動を通じた自己有用感の育成 ○読書活動の推進	きまりを守り、仲良くできる。				仲間との関わりを深め、互いに信頼し、協力して活動できる。			自他の良さをや違いを認め、関わりの中で温かい人間関係を築くことができる。	
からだ ○正しい姿勢の定着 ○学校栄養教諭と連携した食育 ○養護教諭と連携した保健指導 ○体力づくりの充実	「早寝・早起き・朝ごはん」を実現し、運動や遊びに進んでとりくむことができる。				自己の生活習慣に関心をもち、各種の運動に積極的に取り組むことができる。			自らの心身の健康管理や体力の向上に進んで取り組むことができる。	
ちいき ○児童会・生徒会によるボランティア活動 ○小中合同のクリーン活動 ○地域行事への参加・協力 ○ボランティアによる地域貢献とキャリア教育の充実	地域やふるさととの良さを知ることができる。				地域への行事に積極的な参加・協力ができる。			地域やふるさとへの愛着をもち、地域社会に主体的に貢献できる。	

学びを支える10の特色（先進校の例）

- ①義務教育9年間を一体として捉えた系統性のある教育課程の工夫
- ②幅広い異学年交流による特色ある活動や学校行事
- ③温かい人間関係を築く多様な交流・協働活動
- ④基礎期後半（3年生）からの一部教科担任制、充実期の相互乗り入れ指導
- ⑤一貫教育の軸となる新教科の設置
- ⑥コミュニケーション能力を育む英語教育の充実
- ⑦豊かな自然・文化を学習材とした「ふるさと学習」の推進
- ⑧一人一人を大切にした特別支援教育の充実



インクルーシブ教育システムによる一人一人の教育的ニーズに対応したきめ細かな支援

- ⑨キャリア教育の推進
- ⑩地域とつくるコミュニティ・スクール（学校運営協議会の設置）

学校教育目標との関連

○9年間の学びを連続させる学習指導・・・学びに向かう力の育成 =小中一貫指導体制の構築

- ① 学級担任制（学級担任が授業を実施）
- ② 一部担任制（学級担任間で授業を交換）
- ③ 相互乗り入れ指導（前期または後期課程教員が他方の課程で授業を実施）
- ④ 教科担任制（教科の免許所有者が授業を実施）



確かな学力の定着

①新教科「ふるさと科（仮称）」の設定

生活科と総合的な学習の時間を融合した「ふるさと」学習

○情報、防災・安全、キャリア、農業体験、環境 等

②学校研究の充実



絆を深める交流・協働活動

①児童生徒活動（リーダー学年を設定し、児童生徒の成長を促す）◎はリーダー学年

例）・学習発表会（1、2、3、◎4）・音楽会（5～◎9）・1年生を迎える会（1～◎6）

・学年集会（毎月） ・9年生を送る会（1、2、3、◎4、5、6、7、◎8、9）

②縦割り班活動（体験的活動）

例）・縦割り班対面式、結成式（1～◎9） ・仲良し集会（1～◎6）

・ツデーウオーク（1～◎4、5～◎9）・清掃活動（1～◎6、7～9年学級ごと）

③学年交流活動

例）・仲良しタイム（1～◎4） ・学び合いタイム（5～◎7）

・1年生への読み聞かせ（1、6、◎7）

・部活動激励会（5、◎6、7、8、◎9）



日高市小中一貫教育推進委員会の取組

高萩地区小中学校共通目標

＜小中共通目標 ～目指す15歳像～＞

- 全 体 ふるさとを愛し、生
- 知 育 夢を持ち、豊かな学
- 徳 育 絆を大切にする子
- 体 育 明るく元気な子

高根地区小中学校共通目標

＜小中共通目標～目指す15歳像＞

- 全 体 夢を持
- 知 育 自ら学
- 徳 育 夢に向
- 体 育 あきら

高萩北地区小中学校共通目標

＜小中共通目標 ～目指す15歳像～＞

- 全 体 「明日をひらき のびゆく 輝多っ子」
- 知 育 自ら学び続ける子
- 徳 育 相手の気持ちを考え行動できる子
- 体 育 進んで運動を楽しめる子

＜設定理由(納得させる説明) 児童生徒の、

本地区の小中共通の課題として、以

- 1 主体的に取り組む。
- 2 ねばり強く取り組む。
- 3 コミュニケーション能力が低い。

これらの課題を克服するために、目標

学校運営協議会などで話し合った内容

以下の三点がある。

- ・「おらが地域」という言葉を用い
- ・「感謝」できる人に成長して欲し
- ・毎日「健康」でいて欲しい。

こうした地域の意見を踏まえて、地域

きるような目指す15歳像を設定し

＜設定理由(納得させる説明) 児童生徒のよさと課題をもとに＞

本地区の児童生徒のよさは、

これは、家庭や学校だけでなく、

力によって育てられている。

一方、次のような課題が見ら

ある。虫歯の治療率が低く、1

は宿題などの提出物を自分から

『学力に課題が見られる児童生

『自分に自信がもてない点』で

ものだが、本地区の児童生徒は、

られなかったりしたことなどが

こうしたよさと課題を踏まえ

しっかり身に付けること』『自

く取り組むことで先の2つの課

取組は、児童生徒のできるこ

ながっていく。自信は自分た

の夢を持つことにつながる。ま

地域の力のおかげであ

このように、自分にできるこ

の支えに気づき、「いつかは自

たいと考え、目指す15歳像を

＜設定理由(納得させる説明) 児童生徒のよさと課題をもとに＞

本地区の児童生徒のよさ・課題は、児童生徒・教職員・保護者・地域で実施したアンケートより以下のように示すことができる。

＜よさ＞

- ① 明るく、元気である。
- ② 仲がよい。
- ③ 行事等に一生懸命で、団結できる。

＜課題＞

- ① 学力の向上（あきらめない・粘り強く・自ら進んで）
- ② 積極性・自主性（あいさつ・時間を守る・忘れ物をなくす・決まりを守る）
- ③ 豊かな心の育成（いじめをなくす・悪口をなくす・掃除を頑張る・言葉遣い）

また、児童生徒のよさ・課題に加え、長年にわたり学校を支えて下さる方が多数おり、学校に対して協力的に活動していただいているという特色がある。これらを踏まえ、高萩北地区の児童生徒育成のねらいとして、小中学校9年間の学び（学習面）と、育ち（生活面）、生涯に渡り運動に取り組める姿勢（体力面）を鑑みて目指す児童生徒像（知・徳・体）を設定した。

目指す15歳像は、自ら未来を拓き、生涯にわたり成長し続け、地域に貢献できる北（輝多）っ子を育てたいと考え、上記のように設定した。

<算数・数学科の目標>

数学的な見方・考え方を働かせ、多
くを目標とする。

- (1) 数量や図形などについての基礎
事象を数理的に処理する技能を
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通
や図形の性質などを見いだし統
理・明瞭・的確に表現したり目的
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよ
さとする態度、算数で学んだこと

<算数・数学科における児童生徒の課題>

- (知識・技能)
- ・ 数量や図形についての知識及び技能
- (思考・判断・表現)
- ・ 数量の関係や決まりを見つたり、
- (学びに向かう力・人間性)
- ・ 算数・数学を学ぶ楽しさやよさを知

<児童生徒に身に付けさせたい力>

- A 領域 数の概念と表す力 計算の
- B 領域 図形の意味と書き方を説明す
- C 領域 数量関係に着目して量の関係
- D 領域 目的に応じたデータを収集し

<カリキュラムの特徴のポイント>

- 系統が分かるようにすべての領域を1
- 下学年から系統性のある単元を直線 -
- 日高市重点項目として、A領域を選択

〇〇小・中 一貫教育 カリキュラム

「〇〇っ子」の生かしたいよさと解決したい課題 (

<生かしたいよさ>

【児童・生徒】・・・①明るく、元気 ②年齢や性別に
③素直な性格で勤労奉仕の心が育
(お手伝い、

【地域・保護者】・・・全体的に協力的で子供や職員を
(解決したい課題)

【児童・生徒】・・・①積極性や自主性 ②時間の意識
【地域・保護者】・・・家庭の教育力の2極化 (熱心⇔

カリキュラム作成のねらい

〇〇小・中学校の9年間を見据えたカリキュラムを
開発・実施することにより、義務教育9年間で一貫性

(算数・数学) における〇〇っ

時計・長さ・水のかさ等生活に関係するところ
論理的思考力の差 表現・活用の差
きまりのある計算はできる 生活体験が乏しい 質問
予想を立てて見直しを持つ力 振りかえ、見直し

〇〇っ子に育みたい (算数・数学

外部には弱い 安心した生活による高1ギャップ 実
で算数の意識を持たせる。考える力を育み困難を乗り
の喜び・粘り強く考える力、予想、失敗の繰り返しで

目指す〇〇っ子の15歳の姿

多角的な視野 生活に生かせる力 問題解決力 活用

〇〇小・中 一貫教育 カリキュラム (算数・数学)

では、左記の考えに基づき、下記3区分(4・3・2)において児童生徒がつまづきやすい場面や単
元を特定し、9年間を見通し、つながった教育となるように、重点をおく指導を考えましょう。
特に、第2期は小中の接続時期であり、中1ギャップを生まない工夫ができるとよいと思います。

つまずきやすい場面等	文章問題をとくためのイメージ・ 想像力 時計 長さ 量 図形	関数 図形 回転 移動 文章問題	算数での説明や証明 文章問題
	①保護者・家庭に対しては、学校にもっと興味を持ち、学校に足を運んで学 校の様子を把握する。子どもが大きくなると学校に対して興味が薄くなった り、子どもが恥ずかしくて学校に来てほしくなかったりするが、学校と保護 者・家庭がつながっているといい。 ②授業の見学や、授業のサポート	授業のつながり 9年間を見通し た系統性の把握 ペア学習 (お互いが意見を言え る) 式の成り立つ理由が書ける	協同学習 (人の意見を聞いて自分 の考えと合わせ、考えを深める) 式の成り立つ理由が書ける 途中式をかかせる
算数・数学の学習を通して、 児童生徒の学びの楽しさや よさを伝えること・意識すること	①ノート指導 ②計算力 ③テープ図 (特に1年) ④数直線指導 (【1】あたりの数の見方) ⑤九九の【意味】の徹底 (2年) ※かけ算はできるが意味を捉えていない→「九九ができれば よし」ではない	協同学習で学んだことを個人で も考えられる 既習事項を活用し、式の成り立 つ理由が書ける 途中式をかかせる	
算数・数学の学習を通して、 児童生徒の学びの楽しさや よさを伝えること・意識すること	①②授業参加と、学校を批判するのではなく、一緒に授業をつくっていく。		
第1期 小1～4 【学びの基礎期】 基礎基本の定着を図る時期	第2期 小5～中1 【学びの充実期】 第一期で身に付けた基礎基本の拡充 と応用を図る時期	第3期 中2～中3 【学びの発展期】 第二期までに身に付けた力の発 揮を図る時期	

小中一貫教育課程推進委員会

令和2年9月1日（火）

中学校の先生による小学校への乗り入れ授業について

目的

- ・学力向上（3、4年生の学力向上）教科：英語、算数、国語
- ・小学校から中学校への緩やかな接続

時期

・9月3日（木）～3月5日（金）

小学校日課表	
朝授業等	8:25～8:40
朝の会	8:40～8:45
1校時	8:45～9:30
2校時	9:40～10:25
業間休み	10:35～10:40
3校時	10:45～11:30
4校時	11:40～12:25
給食	12:30～13:15
清掃	13:15～13:10
昼休み	13:30～13:50
5校時	13:55～14:40
6校時	14:50～15:35

乗り入れ時間と乗り入れの先生

木曜日 中学校の時程2校時～3校時（9:55～10:45）理科〇〇先生

金曜日 中学校の時程2校時～4校時（9:55～12:45）英語××先生

※小学校と時程が違うので、何時間目というよりは何時～何時までというように設定する場合

中学校日課表	
朝学習	8:25～8:35
朝の会	8:35～8:40
1校時	8:55～9:40
2校時	9:55～10:40
3校時	10:55～11:40
4校時	11:55～12:40
給食	12:45～13:20
昼休み	13:20～13:40
5校時	13:45～14:30
6校時	14:35～15:20
部活	15:30～（月） 16:30～（金）

小中の段差を低くする取組

児童の実態に合わせた学級担任制と教科担任制

1 学級担任制と教科担任制の現状について

- ・小学校までは主に学級担任制であるが、中学校では教科担任制である。
- ・小学校では、高学年になるにつれて教科担任制を実施している学校が多い。
- ・教科担任制を実施する教科には、ばらつきがある。最も多く実施されている教科は音楽で80%をこえている。その一方、国語3.6%や算数7.2%と低い。

【出典：平成30年度公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査 調査結果】

	国語	算数	社会	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語
第1学年	1.1	5.6	1.6	0.8	12.2	4.8	5.1	11.3	
第2学年	2.3	13.6	2.6	1.6	20.7	9.8	7.4	12.0	
第3学年	2.4	28.8	5.0	5.1	21.5	18.8	7.7	11.3	
第4学年	2.6	29.7	7.4	5.9	32.3	20.4	8.4	12.0	
第5学年	3.4	28.5	14.6	7.3	45.1	20.4	33.9	15.3	
第6学年	3.6	28.8	15.6	7.2	47.8	21.0	35.7	19.3	

単位：%

学級担任制の長所

- ①学力や学習の状況を継続的かつ総合的に理解し、継続してきめ細かい指導に生かすことができる。
- ②生活上の問題も含めて総合的な指導が可能である。
- ③複数の教科の内容を組み合わせることで総合的な指導を行うことが容易である。
- ④1単位時間の弾力的な運用が容易である。

教科担任制の長所

- ①教育内容や学習活動の量的・質的充実が図られる。
- ②中、小学校高学年での専門的な指導を充実させられるから、学力や学習意欲の向上が図れる。
- ③多くの教員が多面的に子供の指導に当たれる。
- ④学級内の生徒指導の問題を学級担任一人で抱え込むケースが減少できる。

児童の発達段階等を踏まえ、学級担任制のよさと教科担任制のよさを兼ね備えた指導体制を構築することで小中の段差をなくすることができる。そのための方策を考えていきたい。

2 段差を低くする事例について

- ・小学校低学年（Ⅰ期）は学級担任制を行い、中学年（Ⅱ期）から少人数指導員が入り、高学年（Ⅲ期）から教科担任制を部分的に導入する。
- ・小学校5年生から3つの教科で教科担任制を導入し、小学校6年生から5つの教科に拡大するなど、段階的に教科担任制を導入する。
- ・教科担任制を実施する際、小学校も中学校も健康や心理面の状態の観察の必要性や、特別な支援を要する児童が寄り添って1日のスタートができるような配慮等の観点から、例えば、毎日1時間目又は月曜の1時間目

1 学習評価の現状について

(1) 小学校

単元終了後に記憶が新しいうち
ト、作品などの評価資料をもと

(2) 中学校

各教科の特性を踏まえ中間試験
をする。

(3) 小中の段差を低くする取組

小学校6年生の3学期と中学校
評価問題の水準の違いや問題の

2 段差を低くする事例について

(1) 段差解消のための手立て

小・中学校の教員が協働して小学
段階にする。

(例) 小学校5年生の1学期は2教科、

【図1】 小中一貫教育9ヶ年の

	小1	小2	小3	小4	小5
縦 行					
	学級担任制				
	3段階評価				

	小1	小2	小3	小4	
小 中 一 貫					
	1期				
	学級担任制				
	3段階評価				
	基礎・基本の定着				

事例1

小中一貫教育9年間の中で評定を出す

1～6年は3段階、7～9年は5段階が

主として、1～4年は3段階、5～9年

いずれの場合も、通知表や要領などの

事例2

1年から6年（従来の小学校6年間）

学校6年間）については「5段階」評

が、評定については、生徒、保護者に

3 実施上の留意点について

・円滑な移行を重視する観点から、

期末試験等）を段階的に増やして

・事前ガイダンスを充実させるとと

（個別対応の充実）

・中学校においても単元テストと定

容を定着させる等、実態を考慮し

・（小）絶対評価の中での相対評価

（中）期末テストと単元テストの

・保護者会等において保護者の理解

小中一貫教育 ●●小中 学習スタンダード

夢をもち、自他を愛し、進んで学ぶ●●っ子

授業前	1 授業に必要なものを机の上に準備する。
	2 机をまっすぐに整え、学習する気持ちを持つ。
授業開始	1 号令の指示に従い、元気よく「お願いします」をそろえて言う。
授業中	1 私語をせず、授業に臨む。
	2 挙手をするときは、手をまっすぐに挙げる。
	3 指名されたら「はい」と返事をする。
	4 話を聞くときは、話し手の考えを理解しようとして聞く。
	5 思考の過程が分かるノートをつくる。
	6 分からないことはそのままにしない。
	7 宿題等があれば、必ずノート等に記録する。
授業終了後	1 号令の指示に従い、元気よく「ありがとうございました。」をそろえて言う。
	2 次時の授業準備を行う。

目指す15歳像：進んで学び、学習の基礎基本を
身につけることができる15歳

小中一貫教育の成果と課題（一般的に）

成果

- ・ 学力調査の結果が向上
- ・ 児童生徒の学習意欲の向上
- ・ 小・中学校の教員間で、互いの良さを取り入れる意識の向上
- ・ 指導内容の系統性についての教職員の理解の向上
- ・ いじめや不登校、暴力行為の減少
- ・ 児童生徒の自己肯定感の高まり
- ・ 小・中学校の教員間で、協力して指導にあたる意識の向上



課題

- ・ 小中両免許状取得促進（併有化の推進）
- ・ 小学校高学年のリーダー性の育成



ご清聴ありがとうございました。

日高の子供たちのために、
学校・保護者・地域が
ともに協力していきましょう。

すべては子供たちの笑顔のために・・・

